

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第7回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2008年7月30日 (水) 14:00~16:50
2. 場所 日本原子力発電(株) 第2, 第3会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
(出席委員) 阿部 (主査), 柏木, 河西, 坂下, 三本木, 高橋, 土生 (7名)  
(代理出席委員) 市毛 (関口幹事代理), 吉田 (大浦代理), 水越 (中山 (武) 代理), 中山 (督) (古谷代理), 中瀬 (山田代理), 片岡 (脇代理) (6名)  
(欠席委員) 岡本 (副主査), 櫻井 (2名)  
(常時参加者) 伊藤, 大塚, 熊野, 御子柴, 水井, 三根, 山田 (隆), 八木 (8名)  
(欠席常時参加者) 大間, 菊地, 杉山, 藤井 (4名)  
(事務局) 岡村
4. 配付資料  
F9Ph2SC7-1 第6回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案  
F9Ph2SC7-2 人事について  
F9Ph2SC7-3 標準委員会の活動状況  
F9Ph2SC7-4 4.2, 4.3, 4.4 節の本文の作成方針 (案)  
F9Ph2SC7-5 “廃棄体製作終了後における自主検査段階の管理” の考え方 (案)  
F9Ph2SC7-6 附属書 E (参考) 廃棄体製作管理に係る記録 (案)  
F9Ph2SC7-7 分科会の進め方について (案)  
F9Ph2SC7-8 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」の中間報告結果について  
F9Ph2SC7-9 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」の「附属書 2 (参考)」の一部変更 (案) について  
F9Ph2SC7-参考 1 標準本体、附属書(規定/参考)及び解説の全体構成について(案)
5. 議事
  - (1) 出席委員の確認  
事務局より, 開始時点で代理出席委員を含め 13 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (10 名以上) を満足している旨の報告が行われた。
  - (2) 前回議事録の確認 (F9Ph2SC7-1)  
事務局より, 第 6 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録 (案) が紹介され, 承認された。
  - (3) 人事について (F9Ph2SC7-2)
    - ①委員の退任

事務局より、委員の退任（中山（武）、古谷、山田、脇）、常時参加登録の解除（明里、駒月、野口）及び常時参加者の所属変更（杉山）が報告された。

#### ②委員の選任

事務局より、新委員として中山 督氏（(独)原子力安全基盤機構）、中瀬 辰男氏（(財)原子力環境整備促進・資金管理センター）、水越 清治氏（富士電機システムズ(株)）、片岡 秀哉氏（関西電力(株)）が推薦されている旨紹介され、それぞれについて決議した結果、全員が新委員に選任された。

#### ③常時参加者の登録

事務局より、委員を退任した中山 武典氏より常時参加登録の希望がある旨紹介され、決議の結果承認された。

#### (4) 標準委員会の活動について（F9Ph2SC7-3）

事務局より、標準委員会の活動状況について、説明が行われた。

#### (5) 4.2, 4.3, 4.4 節の本文の作成方針（案）（F9Ph2SC7-4）

F9Ph2SC7-4 に沿って、御子柴常時参加者より、本文の主要部分である 4.2, 4.3, 4.4 節の作成方針について説明が行われた。審議の結果、より具体的な記載内容とした上で次回以降議論を続けることとなった。

主な議論等：

- ・ 表 2 で、品質と品質管理という用語を品質に統一しているが、固型化の管理のような作業管理的なものは、品質管理という用語の方が良いのではないかと。少し簡略化しすぎではないかと。  
→ 再検討したい。
- ・ 確認方法の所に、確認の頻度について記載すべき。  
→ 廃棄体毎か、繰り返し必要かという観点で整理している。何も書いていない所は、廃棄体毎に行うこととしているが、書き方については検討したい。
- ・ 誰が、いつ確認するのかが分かりにくい。例えば、容器蓋取り付け時の確認方法が運転管理記録を確認するとなっているが、作業をしているのだから作業を管理し、記録するとすべきではないかと。  
→ 結果確認のスタンスで書いているが、誰がどのように確認するかは事業者マターではないかと。  
→ 製作管理者個人ではなく、部署として確認するもの。自分で確認するのと、部下がやった結果を確認するのは、確認するという意味では同じこと。組織としては確認し記録するというのではないかと。
- ・ 運転管理記録と作業記録は同じ意味合いであり用語を統一すべき。
- ・ 「一度確認すれば、状況の変化が無い限り以降は省略してよい」という表現があるところと無いところがあるが、切り分けがどうなっているのかが分かりにくい。また、いつまで省略してよいのかが分かりにくいので整理して欲しい。
- ・ 「購入時の品質が保たれていること」という要求がある。確認方法は保管記録の確認となっているが、どうやって品質が保たれていることを確認するのが見えにく

- ・ 確認方法でマニュアル、要領を確認するということがあるが、マニュアルや要領を制定することを前提としているのか。また、マニュアル等で何を確認するのか分からないと不親切ではないか。
  - (分別管理方法といった) 確認の対象がマニュアル、要領に記載されていることを前提としている。
  - 確認の対象は、マニュアル、要領の他にも計画書等でも良いと考えている。
  - 確認方法のあり方、インターバルなどを、もう少し具体的に記載すること。
- ・ 表1で、汚染拡大防止のための対象廃棄物の条件は、密閉されていることではないのか。廃棄物の種類は、固体廃棄物であることに整理すべきではないのか。
  - 液体であれば密閉だけでは汚染拡大防止の要件を満足できない。
  - 固体廃棄物であることの方が分かりやすく、混乱するのではないか。
  - どう書くか検討すること
- ・ 本日の資料は、解説のレベルでまとめているが、規定はどのように書くべきか。
  - 確認方法は視点や立場によって変わるが、普遍的な事項に視点を定め、例えば“品質確認項目”に絞ってはどうか。
  - 今回の内容なら、附属書(規定)としても良いのではないかと考えて作成した。
  - 具体的な標準案を作成し、それを見ながら検討を続けるものとする。

(6) “廃棄体製作終了後における自主検査段階の管理”の考え方 (F9Ph2SC7-5)

柏木委員より、F9Ph2SC7-5に沿って、廃棄体製作終了後における自主検査段階での管理について説明が行われた。

審議の結果、労働安全衛生法に係わる項目は、なお書きにする等廃棄体の品質に係わる項目と差別化を図ることとなった。

主な議論等：

- ・ 労働安全衛生法に基づく点検が記載されているが、廃棄体の品質には直接関係がない項目であり、なお書きにするなど、差別化が必要ではないか。
  - 書きぶりを検討したい。
- ・ 検査設備の校正を、準備段階に入れたのはなぜか。保守点検で良いのではないか。
  - 廃棄体製作の頻度が少ない発電所等を考慮して準備段階に入れた。
- ・ 測定装置初期性能、設定の確認およびそれが維持されていることを確認する、ということの規定すべきではないか。
  - 検討する。

(7) 附属書E(参考) 廃棄体製作管理に係る記録(案) (F9Ph2SC7-6)

F9Ph2SC7-6に沿って柏木委員より、附属書E(参考) 廃棄体製作管理に係る記録(案)が説明され、審議の結果、規定に該当するものを明確に区別することとなった。

主な議論等：

- ・ 本資料は附属書(参考)であるが、記録の内容には規定(must)とするものと参考とするものが混在しているため、これを整理すること。

(8) 分科会の進め方について (F9Ph2SC7-7)

今後の分科会の進め方について、市毛幹事代理より説明があり、了承された。

(9) 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」の中間報告結果について (F9Ph2SC7-8)

F9Ph2SC7-8に沿って、柏木委員より原子燃料サイクル専門部会並びに標準委員会への中間報告結果について説明が行われた。審議の結果、輸送容器標準との関係並びに附属書(参考)の内容の一部を規定に取り込むことについて、検討を進めることとなった。

主な議論等：

- ・ 輸送容器標準は廃棄体に密封性を要求していない。輸送容器標準は既に本報告まで済ませており、考慮は不要ではないか。
  - 例えば、輸送時の加速度等が廃棄体に影響しないかなど、評価されていない。
  - 輸送側から見ると、廃棄体は収納物であり、その評価方法等は決まっている。それが読み取りにくいという問題ではないか。
  - 附属書等に、その旨がわかるように記載する方向でよいと思われる。
  - 専門部会および標準委員会のコメントの扱いについて今後検討していく。

(10) 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」の「附属書2(参考)」の一部変更(案)について (F9Ph2SC7-9)

F9Ph2SC7-9に沿って、高橋委員よりふげん発電所から発生する廃棄物の物量と放射能濃度に関する記載を、最新の知見を反映した内容に変更したいとの説明が行われた。審議の結果、一部記載を修正した上で記載内容の変更について了承された。

主な議論等：

- ・ 廃棄物発生量として「既貯蔵量」と「今後の発生量」に区分されているが、それぞれの時期(期間)を明確にすること。
  - それぞれの時期、期間を注記として追加する。

6. その他

次回分科会は、9月2日(火)の午前中とし、詳細な時間、場所は別途調整することとした。

以上